

【授業計画】 2025年11月～2026年2月（10回）

第1回 「技術の創出と経営の判断」

－通信技術と携帯電話の新たな市場の創出

講師 潮田 邦夫（元）NTTドコモ 常務取締役法人営業本部長

要旨 本事例は、NTTドコモ社で携帯電話の拡大の転機となったi-mode開発と、ワイヤレスソリューションの世界を広げ、携帯ワールドの基盤づくりを図った内容である。

第2回 「経営における問題解決・事業展開のポイント」

－新興国を中心とした海外事業の事例研究

講師 岡部 聡（元）トヨタ自動車(株) 専務取締役

要旨 本事例は、元東京工業大学川喜田教授から学んだ野外科学の考え方をベースに、トヨタでの新興国事業展開における問題解決の事例である。

第3回 「壁を壊し意識を変えるチームビルディング」

－はやぶさ2：開発期5つの苦難を打破した変革

講師 山浦 雄一（元）宇宙航空研究開発機構(JAXA) 理事

要旨 小惑星探査機「はやぶさ2」は開発段階で5つの苦難を同時に抱え、開発完了・打上げさえ危ぶまれた。プロジェクトチームは自力解決の責任感で無理を重ねた。組織間の壁と意識の壁が行く手を阻んだ。事態を打開したのは経営者（講師）による「セオリー破り」のチーム再構築（変革）。チームビルディングが壁を壊し意識を変え、開発完了から運用成功に至る強固なジャパン「協働」チームを生んだ。講師の変革断行にあった「葛藤」を軸に、「現場での実態把握～葛藤～決断・実行～望外の効果」を紹介し、講義の題材とする。

第4回 「経営ビジョンに欠かせないDX戦略の考え方と組織パフォーマンスの最大化」

－DXを実現する4象限と組織ベクトルをマネジメントするリーダーの役割

講師 坪井 正志（元）沖電気工業(株) 取締役

要旨 DX（デジタルトランスフォーメーション）は、デジタル技術を活用して企業に大きな変革を起こすことであるが、様々なアプローチがあり、ややバズワード化しているきらいもある。本講義では経営ビジョンからDXを考え、そのフレームワークと製造業における実例を説明をすることにより、経営とDXの連動性についての理解を深める。会社は組織の集合体であり、DXを含めすべての活動は組織を中心に行われる。リーダーの大きな役割は、組織パフォーマンスをあげることである。組織に属する個々のメンバーをベクトルで表すというアプローチによって、組織パフォーマンスを向上させる方法とリーダーの役割について事例も含めて説明する。

第5回 「企業における研究開発と新製品開発の実践」

－企業の未来を創り出す研究開発部門の役割

講師 三木 一克（元）(株)日立メディコ 代表執行役 執行役社長

要旨 市場のグローバル化、産業の成熟化、製品ライフサイクルの短縮など、企業を取り巻く研究開発環境が大きく変化しているが、企業の研究開発部門は将来事業の源泉であり、企業の「未来」を創成する役割を本来果たす必要がある。本講義では、日立で経験した研究開発を推進する立場と、その成果を製品・事業につなげる立場を踏まえて、新製品・新事業実現の諸施策を示す。また、会社生活で一貫して目指してきた「活気ある職場」を実現するために全社員に提示したメッセージを紹介する。

第6回 「経営者視点の実践的プロジェクトマネジメント」

－多様なステークホルダーが関わるプロジェクト運営

講師 井上 保 (元) 富士通テレコムネットワークス(株) 代表取締役社長

要旨 プロジェクトマネジメント(PM)において「失敗しないための実践的な知恵」を学ぶとともに、プロジェクトのゴールを左右する「ステークホルダーの存在」とプロジェクト運営に関わる「人の思いと行動特性（グローバルに共通）」について理解を深める。ケースを通して炎上プロジェクトの立て直し、DX（デジタル変革）を進める上での留意事項について考え、討議する。

第7回 「組織の成長に欠かせないベンチャー精神」

－大企業における組織の再活性化

講師 海野 忍 (元) NTTコムウェア(株) 代表取締役社長

要旨 本事例は、大企業の中で社員の活性化を図る方法について、人間の本质や心理も勘案しつつ、具体的施策をハード面、ソフト面に分けて提案するものである。ベンチャー企業ではできることが、企業が発展し規模が拡大するにつれてできなくなる理由を分析し、それを防ぐ方法について考察していきたい。

第8回 「経営資源の再編と経営ビジョンの策定」

－7社の経営統合による経営資源および事業の再編と新たな成長戦略の実現

講師 杉山 清 (元) NECソリューションイノベータ(株) 代表取締役社長

要旨 経営統合（合併）における事業展開や経営資源の再編と活用、事業リスクへの対応等を事例として紹介する。2014年にNECグループの成長を支える中核ソフトウェア会社としてソフトウェア開発を担う会社7社が統合した。経営統合による経営資源の最適化に加え、各社の有する先進技術、幅広い業種のお客様や地域と向き合い培ってきた知見を活用して、社会や企業を支えるシステムやソリューション・サービスの提供を目指した。経営統合の判断で求められる観点（社内文化の融合、構造改革、技術者中心の人材育成体系の再編、新規事業創出、既存事業の成長、長期ビジョンの策定等）から、事例を元に議論したい。

第9回 「企業の再生に欠かせない企業文化の醸成と挑戦」

－グローバルな組織間横連携を実現する、技術者ネットワーク構築と次世代基幹人材育成支援

講師 勝本 徹 (元) ソニーグループ(株) 執行役員副社長兼CTO

要旨 本事例は、エレクトロニクス事業の不振から経営危機に陥り多額の赤字を計上した2012年度以降、チーム平井CEO・チーム吉田CEOの経営改革を経て、クリエイティブエンタテインメントカンパニーに変貌し始めた頃のソニーグループの話です。特に技術者や次世代基幹人材のグローバルネットワーク・コミュニティ構築を通して、エレクトロニクス・エンターテインメント・金融というそれぞれの事業の壁を越えた企業文化の醸成にチャレンジした内容にフォーカスします。

第10回 「大型・複合・国際化するプロジェクトにおいてプロジェクトリーダーに要求される資質」

－海外プロジェクトにおけるプロジェクトの問題点、課題

講師 野呂 一幸 (元) 大成建設(株) 常務役員 設計本部長

要旨 日本企業が海外で展開する多くの事業・プロジェクトは大型・複合・国際化している。本事例は、大成建設で数多くのプロジェクトで経験したことを紹介し、プロジェクトの問題点、課題を見抜き、プロジェクトリーダーに要求される資質は何かについて焦点をあてた内容である。